

1 昨年度の研究

(1) 研究主題について

令和元年度の研究主題を「つながる学び ～学びをつなげる導入の工夫～」とし、単元で育む資質・能力とその系統性や関連性、新教材等の研究を進めてきた。特にカリキュラム・マネジメントに着目し、「水」に関わる単元を学年や教科を越えてつなげることにチャレンジした。そして、単元をつなぐ要素として「導入時の既習事項の振り返りと生活体験の想起」にスポットを当てて、「学びがつながった姿」を明確にした評価『つながる評価』を、単元が一覧できる表にして作成した。この表を作成するにあたっては、「系統性や内容のつながり」を深く理解したことで、授業での「児童の気付きやつぶやき」が取り上げられ、有効な指導や評価、声掛けをし、授業づくりを行った。

2 今年度の研究

(1) 研究主題について

育てよう 資質・能力 ～系統性を意識した理科の授業づくり～

(2) 研究の方向性

渋谷区理科部では、研究主題の「資質・能力」を、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」と捉え、さらに理科の学びの基盤となる問題解決の力や活用力、言語力、情報収集・情報活用力等も含めると考えた。

児童は、学習内容を習得するだけでなく、学んだ知をつなげて自らの考えを表現したり、友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりすることで、更に自らの考えを深めることができる。渋谷区理科部では、児童がこのような経験を通して、身近な自然事象から生まれた科学的な疑問を主体的に解決することで、理科の資質・能力を育成することができると考えた。教師が授業づくりを行う際に、単元全体や関連する既習事項、他の単元、他教科の学習内容を理解し、系統性や関連性を意識した視点で授業を組み立てることで、他教科を含めた既習事項を根拠にしたり、関連付けて考えたりすることが大切だと児童も教師も感じるようになり、知をつなげて網の目のように広い視野で考える児童を育成することにつながっていくのではないかと考え、研究を進めている。

(3) 研究計画

日程	内容	会場・授業者等
4月 日		
5月 日		
6月24日	年間計画について	(会場:神宮前小)
8月26日	今年度の研究テーマ(提案)について	講師:神宮前小学校校長 手代木 英明 (会場:神宮前小)
9月8日	授業検討	
10月14日	授業検討	
11月11日	第1回授業研究	講師:横浜国大名誉教授森本 信也先生 (会場:西原小) 授業者:上山 裕子先生 4年「雨水の行方と地面の様子」
12月9日	第2回授業研究	講師:文部科学省教科調査官鳴川 哲也先生 (会場:西原小) 授業者:二見 友海先生 6年「電気と私たちの暮らし」
1月13日	今年度の研究の総括と発表会に向けて	講師:神宮前小学校校長 手代木 英明 (会場:神宮前小)
2月24日	渋谷区発表	オンライン開催(理科部、図工部、特別支援教育部発表)